
日本体育・スポーツ史 学会 会報

Japan Society of the History of
Physical Education and Sport

No. 230, 2024. 7. 18.

日本体育・スポーツ史学会事務局
<http://www.taiikushi.org>

〒186-8688

東京都国立市富士見台 4-30-1

東京女子体育大学

藤坂由美子研究室内

Tel : 042-505-7264

taiikushi_office@taiikushi.org

事務局への連絡は、なるべく
e-mail をご利用ください。

I. 学会名を「日本体育・スポーツ史学会」へと改称

【学会名称の変更に関する趣旨説明】

2022年9月15日、本学会理事会は「学会名称の変更に関するアンケート」を会員諸氏に依頼し、その結果を理事会で共有しつつ、議論を重ね、名称変更を総会に諮ることとなりました。そして、2024年6月9日に開催された本学会の総会において、「体育史学会」から「日本体育・スポーツ史学会」への名称変更が承認されました。

変更理由は、第一に英文表記に倣った日本語表記にしたこと、第二に日本体育学会が日本体育・スポーツ・健康学会へと名称変更したこと、そして第三に会員諸氏がこれまで扱ってきた研究テーマの多くが体育史（History of Physical Education）ではなくスポーツ史（History of Sport）であったことによります。体育史という用語が狭義に学校体育史を指し示すのに対し、スポーツ史という用語は、運動や身体の歴史をも包摂する広がりをもっていることは周知の通りです。

学会名称の変更により、研究テーマなど、その対象がよくわかる看板への掛け替えができました。もちろん言うまでもないことですが、私たち学会員は体育やスポーツだけではなく、健康、舞踊、レジャーなども対象に包含させながら、研究を推進して参ります。

学会名称の趣旨をご理解頂き、本学会の益々の発展に御協力頂けると幸甚であります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年6月28日

日本体育・スポーツ史学会

会長 鈴木明哲

この学会名称の変更に伴い、今後はホームページの改訂および各関連団体への登録変更手続きなどを順次行います。なお、本学会の機関誌である『体育史研究』については、これまで積み上げてきた学術雑誌としての価値を継承する観点から、名称を変更しないこととします。

II. 体育史学会第 13 回大会の報告

体育史学会第 13 回大会は中村哲也会員（高知大学）・山本英作会員（高知学園短期大学）のお世話により、6 月 8 日（土）および 9 日（日）の両日、オーテピア高知図書館ホールにおいて開催され、一般研究 8 演題の発表と学会企画が実施されました。学会企画では、平塚卓也会員（奈良女子大学）による研究成果報告がありました。（参加者：37 名）

以下に学会大会 2 日間における発表者と演題を報告します。

〔一般研究発表〕（発表順）

- 1) 明治期の青山女学院宣教師アーリング女史とバスケットボールの接点
柿山哲治（福岡大学）
- 2) 渡邊昇の「名士の嗜好」（明治 32 年）にみる言説及びその背景
— 剣術を通じた身体教育の考え方 —
田端真弓（長崎大学）
- 3) 生兵概則・軍隊教育順次教令からみた軍隊教育と体操
木下秀明（元 日本大学）
- 4) 日本人アスリートの短距離走法に関する技術史研究
— 1920 年代から 1930 年代を中心に —
大林太朗（筑波大学）
- 5) 1960-70 年代における内山源の保健科教育研究に関する一考察
— 保健科教育内容の選択・構成に関する実践研究と理論研究に着目して —
近藤雄大（北海道大学大学院）
- 6) ナチ党員であったオーストリア・トップスイマーの虚偽申告とその後
— 人民裁判と抗告委員会における J. Paukerl —
鈴木明哲（東京学芸大学）
- 7) 日中戦争下でのスキー活動について
新井 博（日本福祉大学）
- 8) 統括権をめぐるトゥルネンとスポーツの対立とドイツ帝国体育委員会
都筑 真（日本女子体育大学）

〔学会企画〕

戦後日本スポーツ政策の形成過程の描き方への挑戦

— 『戦後体育行政の形成過程』をもとに —

演 者：平塚卓也（奈良女子大学）

司 会：鈴木明哲（東京学芸大学）

III. 体育史学会総会（2024 年度）報告

2024 年度体育史学会総会を、第 13 回大会終了後（6 月 9 日）に、オーテピア高知図書館ホールで行いました。2023 年度収支決算報告（案）、2024 年度事業計画（案）、2024 年度予算（案）が審議され、すべて承認されました。

総会の審議事項として、体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）を体育史学会研究奨励賞へ改称し規程・施行細則を改正する案、学会名称を変更し会則を改正する案が提示され、討議の結果、すべて承認されました。

なお、総会資料および総会記録については本学会ホームページにパスワード付で掲載済みです。パスワードは2024年6月26日にメールマガジンで会員のみに配信しました。

IV. 2024年度体育史学会研究助成

桐生習作会員の「戦後の少年柔道に関する史的研究：全日本柔道少年団を中心に」が採択されました。

V. 体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）

※ 対象：『体育史研究』第40号（2023年3月発行）掲載論文

川村若菜「19世紀末ロンドンにおける墓地跡地の都市公園及び運動場への転用に関する体育史的考察—Metropolitan Public Gardens Association による慈善事業としての用地転用の実相—」が受賞しました。

VI. 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会における専門領域企画

日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会は2024年8月29日（木）から31日（土）まで、福岡大学において開催されます。体育史専門領域では、キーノートレクチャー1演題および一般研究発表10演題を予定しています。

1. 体育史専門領域キーノートレクチャー

日時：8月29日（木）10:40～11:40

会場：福岡大学 815 教室

テーマ：体罰と日本野球 歴史からの検証

演者：中村哲也（高知大学）

司会：崎田嘉寛（北海道大学）

2. 一般研究発表

日時：8月31日（土）9:00～16:15

会場：福岡大学 815 教室

発表10演題（詳しくは後日公開予定の第74回大会ウェブサイトを参照ください）

VII. 『体育史研究』編集委員会より

『体育史研究』第42号（2025年3月発行予定）への投稿をお待ちしています。第42号の投稿締め切り日は、2024年9月30日です。

なお、『体育史研究』への投稿の受付と審査は年間を通して行われ、各年度の投稿締切日は9月末となっています。投稿の手続きについては、『『体育史研究』投稿規定』（学会ホームページ [「体育史研究」→「投稿・編集規定」]）をご覧ください。

『体育史研究』への投稿の宛先

1) メールでの投稿

体育史学会『体育史研究』編集委員会事務局：editorial_office@taiikushi.org

2) 郵送での投稿

〒060-0811

北海道札幌市北区北 11 条西 7 丁目

北海道大学大学院 教育学研究院

崎田嘉寛研究室内 『体育史研究』編集委員会

Ⅷ. 年会費納入のお願い

学会の年会費を銀行口座からの自動引き落としにしている会員の皆様は、下記のゆうちょ銀行口座へ送金してください。2023 年度の年会費が未納の方は、早急に送金をお願いします。

①郵便振替を利用される場合

記号番号 00180-0-386444 加入者名 体育史学会

②銀行振り込みを利用される場合

ゆうちょ銀行総合口座

10020 76030671 口座名義 体育史学会

以上